

千葉市感染症発生動向調査情報

2021年 第26週 (6/28-7/4) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	26週	25週	24週	23週
小児科	18	17	17	17
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	27	27	27
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市				千葉県	
		注意報	6/28-7/4	6/21-6/27	6/14-6/20		6/7-6/13
			26週	25週	24週		23週
小児科	RSウイルス感染症	○	47 2.61	35 2.06	40 2.35	15 0.88	425 3.22
	咽頭結膜熱		3 0.17	1 0.06	3 0.18	4 0.24	26 0.20
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1 0.06	6 0.35	8 0.47	6 0.35	69 0.52
	感染性胃腸炎		57 3.17	65 3.82	54 3.18	41 2.41	290 2.20
	水痘		5 0.28	1 0.06	0 0.00	1 0.06	17 0.13
	手足口病		0 0.00	1 0.06	1 0.06	3 0.18	6 0.05
	伝染性紅斑		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.06	1 0.01
	突発性発しん		2 0.11	14 0.82	8 0.47	12 0.71	58 0.44
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.12	9 0.07
	流行性耳下腺炎		0 0.00	1 0.06	2 0.12	0 0.00	9 0.07
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		0 0.00	0 0.00	1 0.20	0 0.00	4 0.12
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(160件)

※新型コロナウイルス感染症152件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	IGRA検査等	腸管出血性大腸菌感染症	男性	60歳代	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認
結核	男性	60歳代	IGRA検査		女性	20歳代	
結核	男性	70歳代	病原体等の検出等		女性	40歳代	
梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代~80歳代	病原体遺伝子の検出等
梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出	-	-	-	-

・第26週は、結核3件(70)、腸管出血性大腸菌感染症3件(13)、梅毒2件(25)、新型コロナウイルス感染症152件(5116)の発生届があった。

※ ()内は2021年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第26週のコメント

＜RSウイルス感染症＞ 前週より増加し、過去10年で最も多かった2017年第35週の2.67に次ぐ多さとなった。区別の発生状況は、美浜区(4.75)で最多、2歳及び3歳で最も多く、通常は報告が少ない5歳及び6歳での発生報告があった。他に稲毛区(2.67)、若葉区(1.50)及び緑区(4.25)で発生報告があった。

■ トピック ■

＜RSウイルス感染症＞

全国レベルの第25週は、前週より大幅に増加し3.87となり、過去10年で最多となりました。全国的に増加しており都道府県別では福井県、三重県、山口県の順に多くなっています。千葉県は3.22で全国レベルと比べるとやや少なめとなっています。

千葉市では2020年に引き続き2021年は年頭から発生報告がなかったものの、第15週から発生報告が出始め、第21週に急増し流行開始の目安とされる1.00を上回った後も上下しながら増加し続け、例年より早い立ち上がりとなっています。第26週は前週より増加し2.61となり、過去10年で最多の2017年第35週の2.67に次ぐ多さとなりました。区別の発生状況は、美浜区(4.75)で最多で、2歳及び3歳で最も多く発生報告がありました。

2021年第1週から第26週までの累積報告数は180件で、男性57.8%(104件)、女性42.2%(76件)となっており、年齢階級別では1歳(33.9%:61件)、2歳(25.6%:46件)、3歳(13.3%:24件)の順に多くなっています。年齢階級別に過去10年の報告数と比較すると、1歳以下は平均を下回っていますが、2歳以上で平均を上回り、特に3歳では過去10年の平均+SDを既に上回っており、また過去5年では報告がなかった5歳及び6歳での発生が報告されています。

RSウイルス感染症は、2歳までにほぼ100%の幼児が一度は感染するとされています。年長児等が再感染するとその多くは軽い症状ですが、生後数週間～数か月間の乳幼児が初めて感染すると細気管支炎、肺炎のような重篤な症状となる場合があります。

感染経路は飛沫感染と接触感染です。発生報告が増えている年長児や、成人に、咳等の呼吸器症状がある場合は、RSウイルス感染症に感染している可能性を考慮して、可能な限り1歳未満の乳幼児との接触を避けることが重要です。飛沫感染対策としては、マスクを着用して接することが大切です。接触感染対策としては、子どもが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒し、流水・石鹸による手洗いか又はアルコール製剤による手指衛生の励行を行います。

